

守山企業景況調査報告書

(第18回)

平成26年1月～平成26年3月期 実績

平成26年4月～平成26年6月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	19	95.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	12	100.0%
サービス業	20	20	100.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	69	97.2%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月、見通しを平成 26 年 4 月～平成 26 年 6 月とし、調査時点は平成 26 年 4 月 30 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 26 年 1 月～3 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 26 年 1 月～3 月期の調査結果では、業況、売上高、採算（経常利益）が改善したが、資金繰りは悪化している。

<業況>

業況 DI は 1.5 とプラスの数値になった。これは前回調査に比べて 4.7 ポイントの改善である。業種別では、製造業 25.0、建設業 30.0、卸売業 50.0 と 3 業種がプラス数値となり、小売業▲15.8、サービス業▲25.0 とマイナス数値であった。

4～6 月期見通しは、全体で▲29.7 と大きく下っており、建設業を除く全ての業種でマイナスの数値となっている。

<売上高>

売上高 DI は 21.7 と前回調査に比べて 24.7 ポイント上昇している。業種別では小売業 5.3、製造業 33.3、建設業 58.3、サービス業 0.0、卸売業 50.0 とサービス業を除く全ての業種でプラスの数値であり、サービス業も 0.0 とマイナスの数値ではなかった。

4～6 月期見通しは全体で▲30.4 と大きく下っている。

<採算（経常利益）>

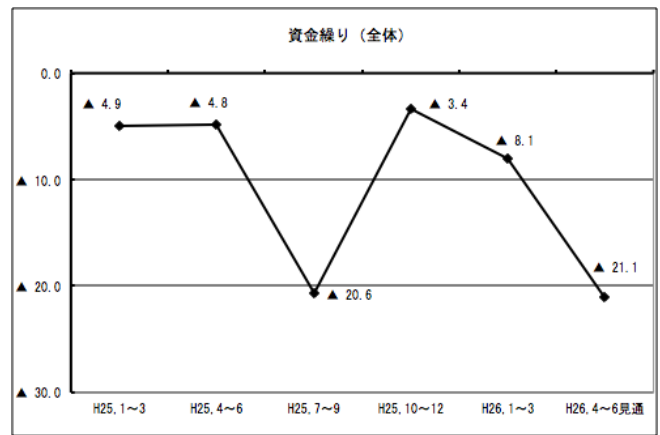
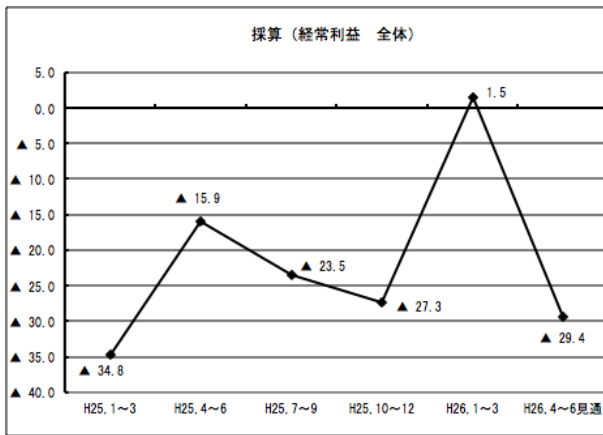
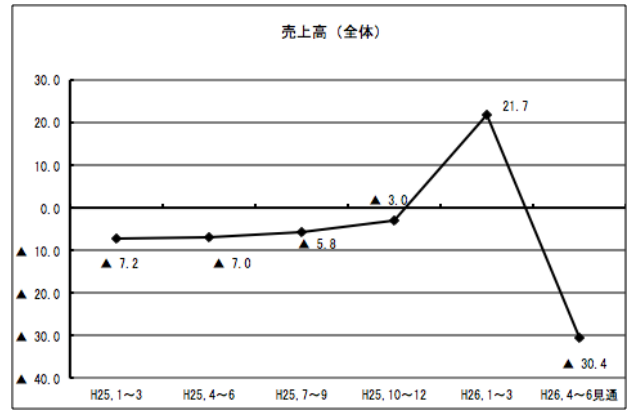
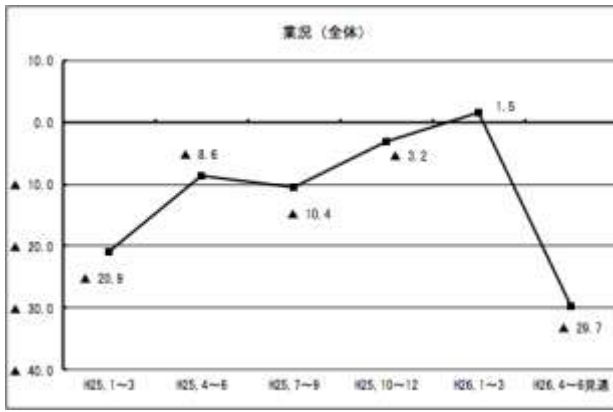
採算（経常利益）DI は 1.5 と前回調査に比べて 28.8 ポイント上昇している。業種別には、小売業が▲5.3、製造業が 16.7、建設業が 27.3、サービス業が▲30.0、卸売業が 50.0、小売業とサービス業はマイナスの数値であったが残りの製造業、建設業、卸売業はプラスの数値であった。

4～6 月期見通しでは、全体で▲29.4 と大きく下っている。

<資金繰り>

資金繰り DI は▲8.1 と前回調査に比べて 4.7 ポイント下降している。業種別では、小売業▲5.9、製造業 0.0、建設業▲16.7、サービス業▲12.5、卸売業 0.0 となり、製造業と卸売業の 0.0 以外はマイナスの数値であった。

4～6 月期見通しでは、全体で▲21.1 と大きく下っている。



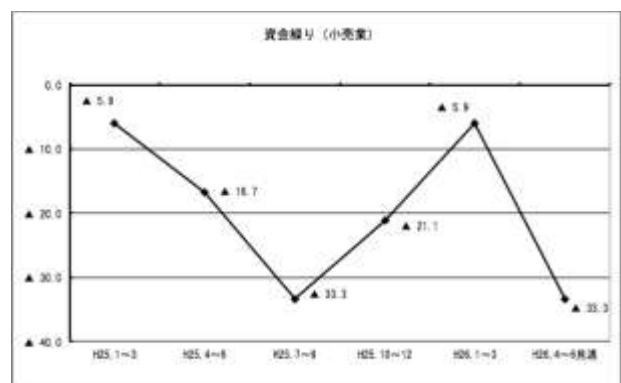
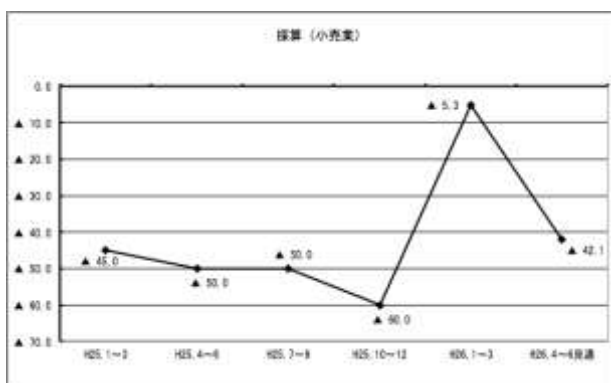
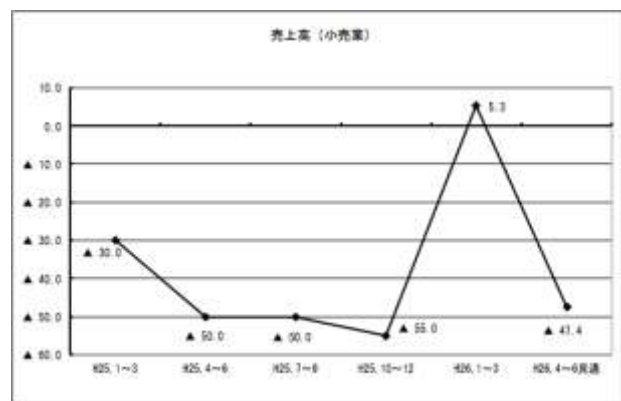
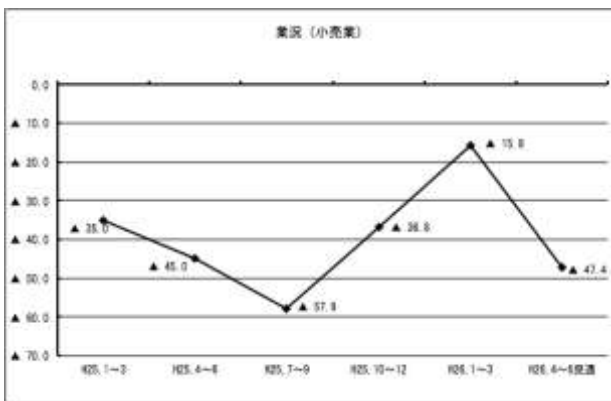
小売業

小売業の業況DIは▲15.8と前回調査より21.0ポイント上昇している。2四半期連続の上昇で改善が進んでいるように見える。個別の回答を見ると、業況がよいとする回答をしたものは、他の売上や採算もよいとする傾向があり、悪いと回答したものは他の項目も悪いとする傾向が出ている。小売業全体の業況DIがマイナスの数値になっているのは、悪いと回答したものが多いためであるが、よいと回答しているものも複数存在し、全体が全く悪いということではなさそうである。

売上高DIは5.3と前回調査より60.3ポイントの大幅上昇である。これは、売上高がよいとする回答が大きく増えたことによるものである。しかし、4～6月期見通しでは、▲47.4と大幅に下降しており、1～3月期が小売業全体で見れば特別よかったと考えられているようである。

採算（経常利益）DIは▲5.3と前回調査に比べて54.7ポイント上昇した。売上が特によかったとする結果と呼応する形になっている。しかし、4～6月期は▲42.1と大きく下っており、かなり悲観的な調査結果となっている。

資金繰りDIは▲5.9で前回調査より15.2ポイント改善している。資金繰りDIは大きく変動しにくい数値のようなので過去の変動域内にあると言える。4～6月期見通しは▲33.3となっているが、これも過去の変動域内である。



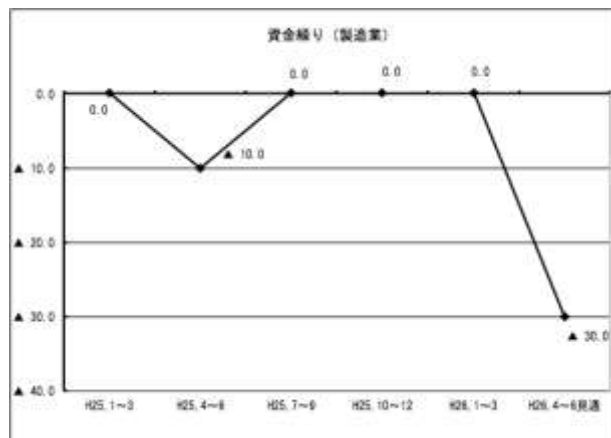
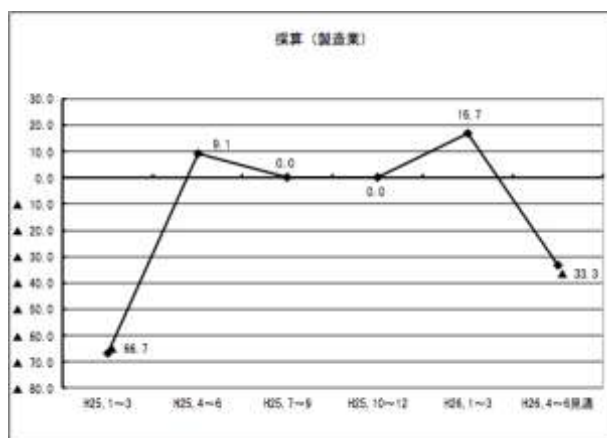
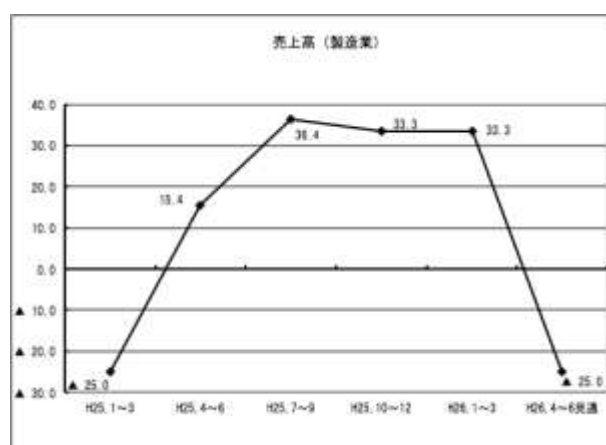
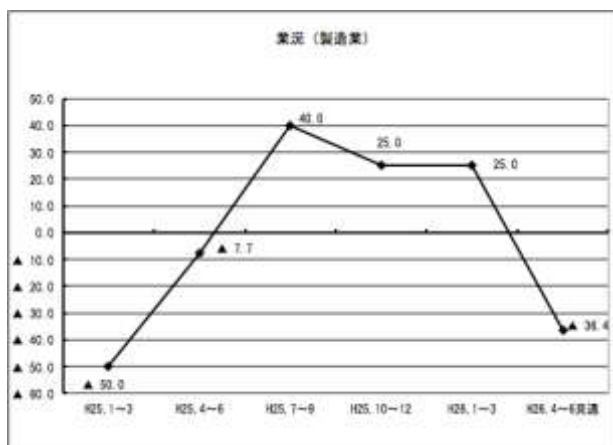
製造業

製造業の業況 DI は 25.0 と前回調査と同数値であった。これで 3 四半期連続のプラス数値である。個別の回答を見ると製造業の半数はよいと回答しており、25.0 という数値以上に個別企業の業況判断はよさそうである。一方で悪いと回答したものも複数ある。また、4~6 月期の見通しでは▲36.4 とかなり慎重な回答となっている。

売上高 DI は 33.3 と前回調査と同数値である。売上高は 4 四半期にわたりプラスの数値が出てる。過去 4 四半期の売上高は堅調に推移したことがわかる。しかし、4~6 月期見通しは▲25.0 と一気に反転しており、業況と同じくかなり厳しい見通しが立っている。

採算（経常利益）DI は 16.7 となり前回調査より 16.7 ポイント改善した。業況、売上高と並んで 1~3 月期の採算はよい結果となったようである。4~6 月期は▲33.3 とこれも非常に厳しい見方がされている。

資金繰り DI は 0.0 で前回調査と同数値であった。過去 4 回の調査でも同じような数値であるので資金繰りは安定していると考えられる。これに対して 4~6 月期は▲30.0 と過去 1 年にない厳しい数値であり、他の DI と同じように 4~6 月期は資金繰りも厳しい見方がされている。



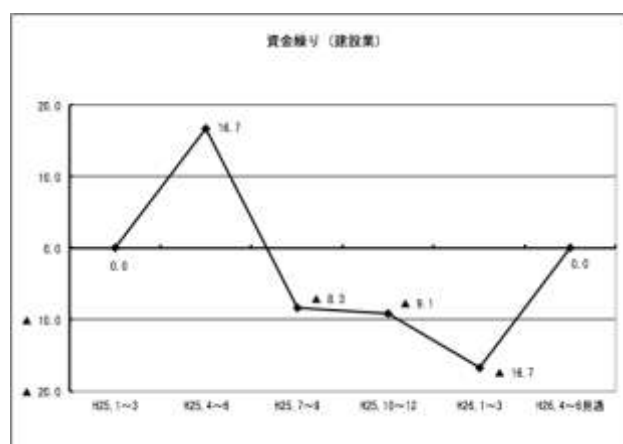
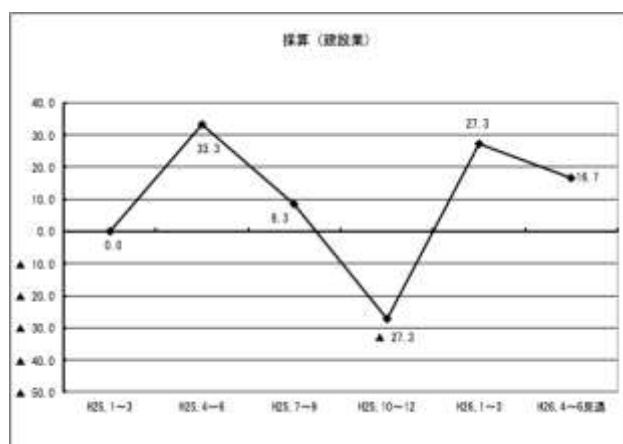
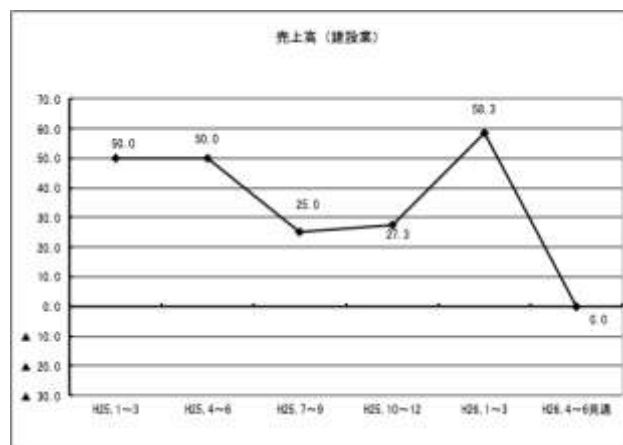
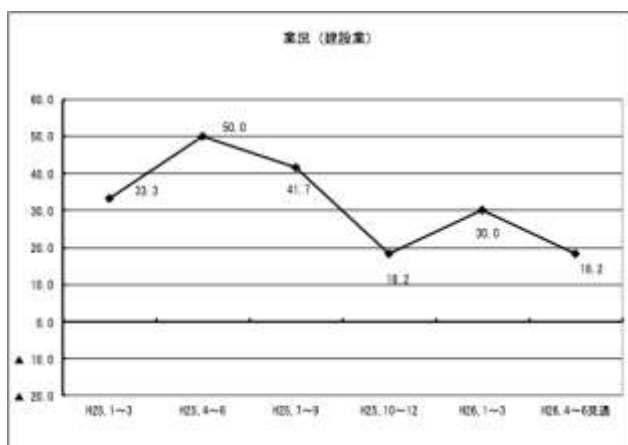
建設業

建設業の業況DIは30.0で前回調査より12.8ポイント上昇した。これで5四半期連続のプラス数値である。過去の5四半期から業況は安定しているようである。個別の回答を見るとこのような中でも悪いとする回答があるものの少数意見である。4～6月期見通しも18.2と1～3月期実績よりは落ちるものの大幅な落ち込みではない。

売上高DIは58.3と前回調査より31ポイント上昇した。建設業は1～3月期と4～6月期に高い数値となるようであり、今回も同様の傾向が出たといえる。とは言うものの、数値自体が高い水準にあるので建設業全体としては好調であったと考えられる。4～6月期見通しでは0.0と大きく下っており、次の四半期は厳しいと考えられているようである。

採算（経常利益）DIは27.3で前回調査より54.6ポイントの大幅上昇であった。売上高が好調であったことに加えて、採算もよくなっている。4～6月期見通しも16.7と1～3月期に比べると下るものの依然としてプラスの数値である。

資金繰りDIは▲16.7と前回調査より7.6ポイント下降した。資金繰りは動きの少ない指数であるので通常の範囲内の動きであると考えられる。4～6月期見通しは0.0となっていることからそれがうかがえる。



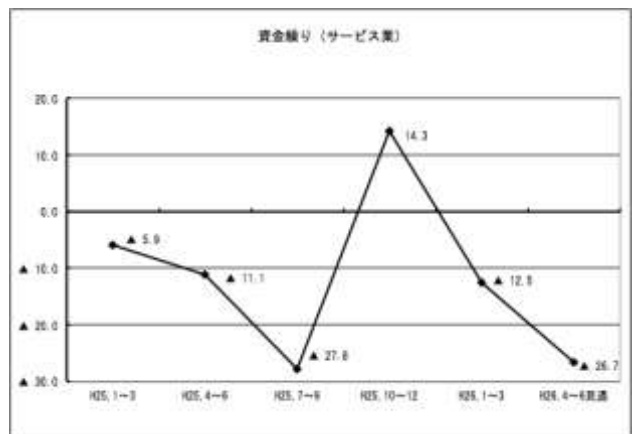
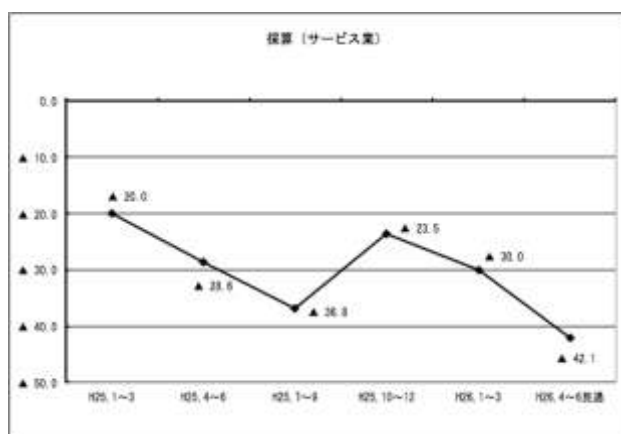
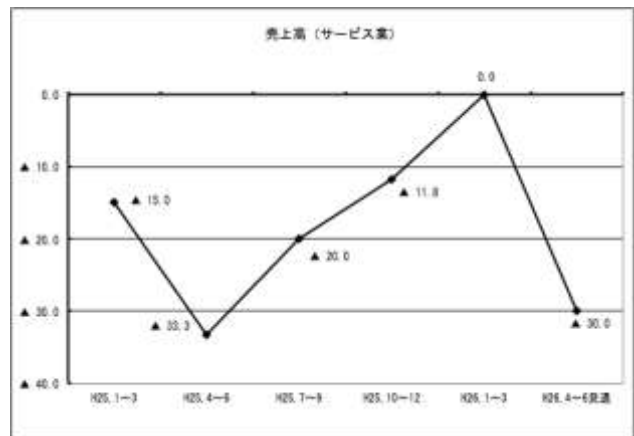
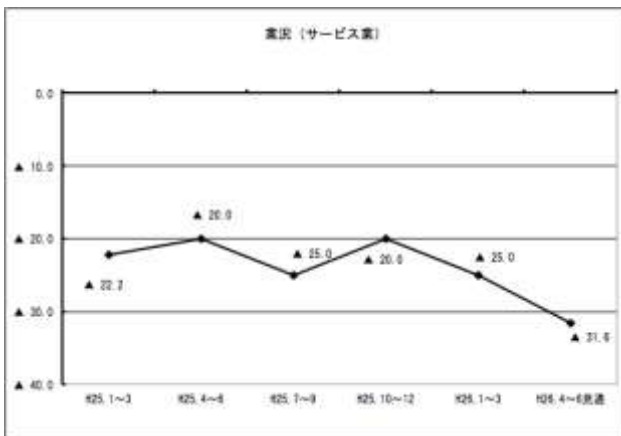
サービス業

サービス業の業況DIは▲25.0と前回調査より5ポイント下降した。サービス業の業況は過去5四半期を見ても同じような数値が続いており、他の業種とは少し動きが異なるようである。個別の回答を見てもよいと回答したものはわずかに1社であり、光が指してこないようである。4~6月期見通しは▲31.6とさらに落ち込んでいる。

売上高DIは0.0で前回調査より11.8ポイント上昇した。過去5四半期で初めてマイナスの数値から脱却している。個別の回答はよいとするものと悪いとするものが同数であったことを示している。4~6月期見通しは▲30.0と再びマイナスの数値になっており、悲観的観測が業界を包んでいるようである。

採算（経常利益）DIは▲30.0で前回調査より6.5ポイント下降した。売上高はよくなったが採算はそうでもないようで、仕入単価の上昇が大きいのしかかっているようである。4~6月期見通しは▲42.1とさらに悪化しており、売上高が悲観的に観測されることに加えて仕入単価の上昇がさらに採算を悪くするという見通しになっている。

資金繰りDIは▲12.5と前回調査より26.8ポイント下降している。前回調査でようやくプラスの数値になったものが今回調査では悪くなってしまっている。4~6月期は▲26.7でさらに資金繰りが厳しくなるような予測である。



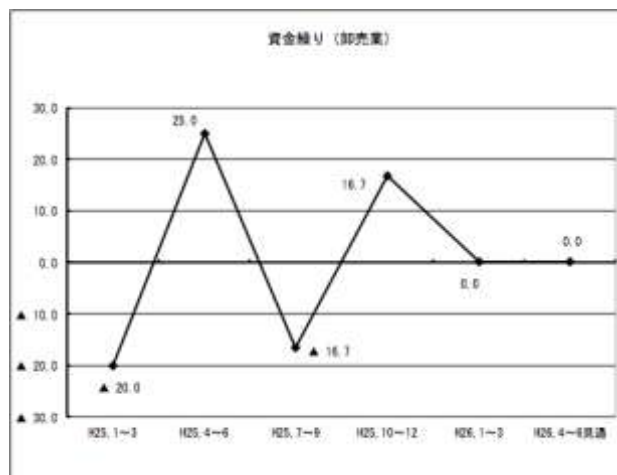
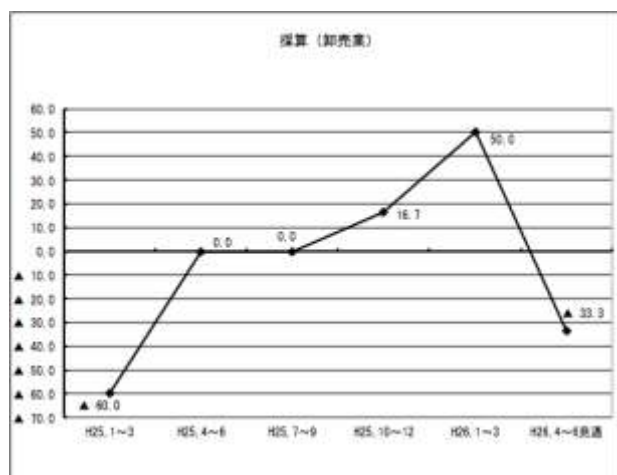
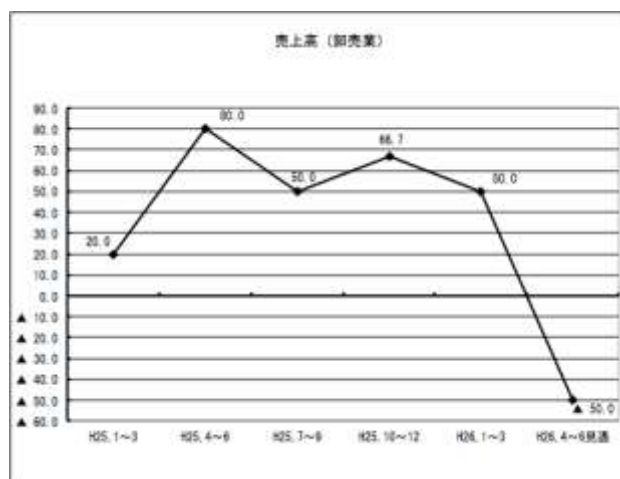
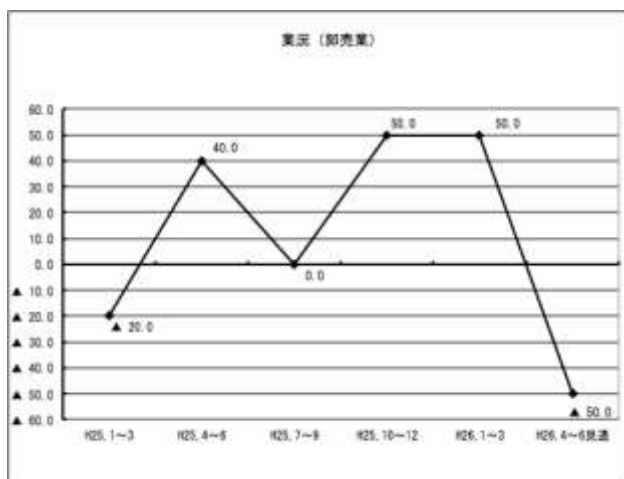
卸売業

卸売業の業況DIは50.0と前回調査と同数値であった。過去2四半期は好調であったようである。しかし、4~6月期見通しは▲50.0と一気に100ポイントも下落しており、好調はここまでと考えられているようである。

売上高DIは50.0と前回調査より16.7ポイント下降した。これで5四半期連続のプラスの数値であり、売上は非常に好調な1年であったと言える。4~6月期見通しは▲50.0でこれも業況と同じく好調な売上はここまでと悲観している。

採算（経常利益）DIは50.0と前回調査より33.3ポイント上昇した。業況、売上高が好調であるところに採算がよくなっている。卸売業の1~3月期は全体的によかったと言える。4~6月期見通しでは▲33.3とマイナスの数値に反転している。

資金繰りDIは0.0で前回調査より16.7ポイント下降した。0.0なのでよいとするものと悪いとするものが同数であり、卸売業全体で見れば悪くなったとは言いきれない。4~6月期見通しも0.0である。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	1～3 月期 動向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	1.5	▲29.7	21.7	▲30.4	1.5	▲29.4
小売業	▲15.8	▲47.4	5.3	▲47.4	▲5.3	▲42.1
製造業	25.0	▲36.4	33.3	▲25.0	16.7	▲33.3
建設業	30.0	18.2	58.3	0.0	27.3	16.7
サービス業	▲25.0	▲31.6	0.0	▲30.0	▲30.0	▲42.1
卸売業	50.0	▲50.0	50.0	▲50.0	50.0	▲33.3

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	15.9	▲11.6	0.0	▲32.8	3.0	4.5
小売業	5.3	▲21.1	▲23.5	▲47.1	▲11.8	▲5.9
製造業	58.3	8.3	18.2	▲9.1	50.0	33.3
建設業	25.0	16.7	25.0	▲25.0	▲8.3	8.3
サービス業	▲15.0	▲35.0	▲21.1	▲40.0	▲10.5	▲10.5
卸売業	50.0	0.0	50.0	▲16.7	16.7	16.7

	3カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し	1～3 月期動 向	4～6 月期 見通し
全 体	▲8.1	▲21.1	5.2	0.0	7.0	3.6
小売業	▲5.9	▲33.3	7.7	▲7.1	7.1	7.7
製造業	0.0	▲30.0	18.2	9.1	18.2	9.1
建設業	▲16.7	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0
サービス業	▲12.5	▲26.7	0.0	0.0	0.0	0.0
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向

